

## [附属練習船勢水丸]

# 令和2年度 附属練習船勢水丸業務報告

前川 陽一・中村 亨

附属練習船勢水丸船長・一等航海士

### 1. 令和2年度附属練習船勢水丸運航概要

令和2年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡大防止に伴い、運航計画の大幅な変更を余儀なくされた。感染拡大防止の観点から、4月～7月までの航海はすべて中止または延期となり、8月以降は感染防止対策を徹底しながら徐々に航海を再開させた。結果的には、実習航海20航海(松阪港内で実施した停泊実習4回を含む)、研究航海2航海、地域貢献等その他の航海2航海の合計24航海、計88日の航海を実施した。実習航海では142人、研究航海では14人が乗船した(すべての乗船人数について海事教員は除く)。毎年、松阪港停泊中に1年生全員が見学するフィールドサイエンスセンター体験演習についてはガイダンスも含めて、生物資源活動タイムを利用してZoomによるオンラインで実施した。また同様に停泊期間を利用して1団体104名(三重大学附属小学校遠足)の見学を受け入れた。

教育関係共同利用拠点事業では、継続申請が認可され3期目に突入した(3期目5ヶ年)。しかし、新型コロナウイルス感染予防のため学外の利用を一切中止として、単独航海および公開実習航海の受け入れはなかった。

その他の航海についても同様に学外からの受け入れは中止となり、毎年実施している高大連携事業のハイスクールフィールドワークなども実施できなかった。台風避難航海として、台風14号で合計3日間の避難航海を行った。

検査工事・一般修繕工事は、一般入札により令和2年12月12日から令和3年1月9日(工事期間12月13日～1月8日)まで大阪市西成区のサノヤス造船株式会社大阪製造所で実施した。竣工12年目の第2種・第3種中間検査および一般修繕工事を行い、実習航海や研究航海に支障が出ないように注意して検査・整備工事を行った。大阪府は三重大学が指定する特別警戒地域であったため、保健管理センター確認のもと滞在中の注意事項を船内に掲示した上で、普段より一層意識を持って感染予防対策の徹底を乗組員に呼びかけた。

令和2年度の航海実績については、以下の表を参照していただきたい。併せて、本船での新型コロナウイルス感染症に対する対策などは、生物資源学研究科紀要に「練習船勢水丸における新型コロナウイルス感染防止対策」として投稿したので参照して頂きたい。

## 令和2年度 航海実績

### 実習航海

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
2001	学内	乗船実習Ⅱ(第1班)	8/17~18	2	7(1)	停泊実習
2002	学内	乗船実習Ⅱ(第2班)	8/20~21	2	7(3)	停泊実習

2003	学内	乗船実習Ⅱ（第3班）	8/26~27	2	7（2）	停泊実習
2004	学内	乗船実習Ⅱ（第4班）	9/7~8	2	7（4）	停泊実習
2005	公開	海洋総合航海実習（第1班）	9/11~14	4	7（0）	
2006	公開	海洋総合航海実習（第2班）	9/24~26	3	7（3）	
2009	公開	海洋地球環境実習（第1班）	10/20~21	2	7（2）	
2010	公開	水産生物学実習（第1班）	10/28~30	3	7（5）	
2011	公開	水産生物学実習（第2班）	11/4~6	3	7（5）	
2012	学内	博士課程特別調査研究	11/10	1	12（4）	
2013	公開	海洋地球環境実習（第2班）	11/17~18	2	7（2）	
2016	公開	海洋地球環境実習（第3班）	1/26~27	2	7（2）	
2017	公開	海洋地球環境実習（第4班）	1/28~29	2	6（1）	
2018	公開	海洋地球環境実習（第5班）	2/2~3	2	7（2）	
2019	学内	乗船実習Ⅱ（第1班）	2/17~19	3	7（1）	
2020	学内	乗船実習Ⅱ（第2班）	2/24~26	3	6（3）	
2021	学内	乗船実習Ⅱ（第3班）	3/2~4	3	7（2）	
2022	学内	乗船実習Ⅱ（第4班）	3/9~11	3	7（3）	
2023	学内	乗船実習Ⅱ（第5班）	3/15~17	3	6（2）	
2024	学内	乗船実習Ⅱ（第6班）	3/22~24	3	7（2）	
小計				50	142（49）	

#### 研究航海

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	主な研究目的
2014	研究航海（宮崎）①	11/26~28	3	7（3）	熊野灘および遠州灘海底谷周辺海域における深海生物の採集及び生息環境調査
2015	研究航海（宮崎）②	12/2~4	3	7（2）	熊野灘および遠州灘海底谷周辺海域における深海生物の採集及び生息環境調査
小計			6	14（5）	

#### その他（一般公開，避難，ドック）

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
	台風14号避難航海	10/9~11	3		
1811	第2種・3種中間検査工事及び一般修繕工事	12/12~1/9	29		サノヤス造船（株） 大阪製造所
小計			32	0	
合計			88	156（54）	

#### 本船見学

10/14 本学附属小学校見学 104名

## 2. 令和2年度 全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会報告

### （1）はじめに

全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会（以下，分科会とする）とは，練習船を持つ次に掲げる水産・海洋系大学（校）を会員として組織され，練習船等の運営並びに教育研究調査などに関する諸問題を協議し，練習船におけ

る教育研究調査の充実発展を図るとともに，練習船相互間の連絡を緊密にして管理運営の改善を促進することを目的として，年に一回，分科会に組織する各大学（校）の持ち回りで開催されるものである。一昨年度である平成31年（令和元年）度は東京海洋大学が当番校となり品川キャンパスで行われる予定であったが，新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止の観

点から年度内の開催は中止されて開催時期未定のまま延期となっていた。結果年度内には実施されず中止となり、昨年度に当番校は東京海洋大学のままオンライン形式での実施となった。日程は、令和3年3月25日（金）で、当番校である東京海洋大学からオンライン形式で行われ、各大学（校）から練習船の船長や機関長をはじめ、練習船乗組員、関係教職員などが参加して行われた。本学からは、前川船長、前機関長、中村一航士、奥村二航士、練習船担当事務葛西氏が附属教育研究施設事務室から参加した。はじめに東京海洋大学神鷹丸宮崎船長から開会の辞があり、同学東海理事、田中海洋資源環境学部長、川辺海洋生命科学部長、宮本水産専攻科長より挨拶があった。議長に同学海鷹丸林船長が選出され、続けて各大学（校）代表者の挨拶の後に議事が進行された。来年度の分科会については審議事項の議題1のとおり、長崎大学が当番校となり開催されることとなった。分科会終了後の情報交換会は実施されなかった。審議事項や報告事項については以下の通りである。

## （2）分科会議事録

日 時：令和3年3月25日（金）13:30～17:00

会 場：オンライン会議

当番校：東京海洋大学

参加大学（校）：北海道大学、東京海洋大学、三重大学、広島大学、鹿児島大学、水産大学校

### 【審議事項】

#### 議題1. 次回当番校変更についてのお願い（北海道大）

北海道大学から令和3年度当番校の変更について発議があった。今年度より代船「うしお丸」の建造が始まり、来年度がその渦中になること、また来年度4月におしよる丸、うしお丸の両船長が人事異動の対象となり、事務部・船

係担当の担当者も代わる可能性があるため、次回当番校に関しては次々回の当番校である長崎大学にお願いしたいということであった。審議に異議はなく次回当番校は長崎大学となり、北海道大学は令和4年度において当番校を務めることとなった。

#### 議題2. 次回当番校および役員について（東京海洋大）

東京海洋大学から提案があり、以下のとおり次回当番校、幹事が決定した。

次回当番校：長崎大学

開催時期：未定（他の練習船の運航予定などを考え実施時期を決定する）

会 長：長崎大学より後日連絡

副会長：長崎大学より後日連絡

副会長：亀井船長（おしよる丸）

#### 各校幹事

北海道大：坂岡首席一等航海士（おしよる丸）

海 洋 大：宮崎船長（神鷹丸）

三 重 大：前川船長（勢水丸）

広 島 大：中口船長（豊潮丸）

水 産 大：富賀見船長（天鷹丸）

長 崎 大：後日連絡

鹿児島大：内山船長（かごしま丸）

#### 議題3. その他

特になし

約20分の休憩の後、報告事項に移った。

### 【報告事項】

#### 報告1. 第18回及び第19回全国水産・海洋系学部等協議会報告について（海洋大）

東京海洋大学神鷹丸宮崎船長から令和元年6月5日に東京海洋大学品川キャンパスで実施された「第18回全国水産・海洋系学部等協議会」、令和2年7月15日～22日にかけてメール会議で行われた「第18回全国水産・海洋系学部等協議会」について、協議事項と承合事項、報告事項の報告がなされた。

## 報告2. 共同利用航海におけるかごしま丸利用料について（鹿児島大）

鹿児島大学かごしま丸内山船長より、共同利用航海におけるかごしま丸利用料について報告があった。鹿児島大学においては同船の共同利用に関する規定を定めておりそれに照らし合わせ、かごしま丸の共同利用料を10日未満の航海の場合は1人当たり10,000円、以後、10日毎に追加で10,000円を共同利用料として徴収しているとのことであった。

## 報告3～6. 各大学練習船でのコロナ対策（北海道大, 広島大, 水大校, 東京海洋大）

各大学（校）より、事前配布の資料を基にそれぞれの練習船で行っているコロナ対策について報告があった。

## 報告7. 「国立大学の附属練習船を活用した大規模災害時支援マニュアル」について（東京海洋大）

東京海洋大学神鷹丸宮崎船長より、上記マニュアルについての報告があり、基本方針や体制、災害時の動きなど改めて各大学練習船へ確認し情報共有を図った。

## 報告8. ドック費用の要望書の経過報告（東京海洋大）

東京海洋大学財務部彦田経理課長から文部科学大臣に宛てたドック費用の要望書の経過報告があった。近年の練習船の検査・修繕費の上昇、運営費交付金の減少等々により練習船の運営維持が困難になっている現状を訴え、検査・修繕費相当の財源措置を要望するというものであり、各大学の各船長名で提出された。

その他の報告事項は特になく、今回の分科会のまとめに入った際にSTCW条約のサバイバル訓練の義務化について話が触れられ各大学同士での情報交換を行った。今回はオンラインでの開催となったが進行も滞りなく進み、議事が終了した後に速やかな閉会となった。

## 3. その他

## （1）練習船運営委員会および共同利用拠点支援室会議について

昨年度は以下の日程で運営委員会および支援室会議が実施され、練習船運営や教育関係共同利用拠点としての取り組みなどについて審議・報告がなされた。

### 【練習船運営委員会】

- 第1回 4月6日
- 第2回 7月7日
- 第3回 9月1日
- 第4回 9月23日（メール会議）
- 第5回 10月21日（メール会議）
- 第6回 11月30日（メール会議）
- 第7回 2月4日（メール会議）
- 第8回 2月10日（メール会議）
- 第9回 3月3日（メール会議）
- 第10回 3月5日（メール会議）
- 第11回 3月18日（メール会議）

### 【教育関係共同利用拠点支援室会議】

- 第1回 4月6日
- 第2回 3月15日（メール会議）

## （2）情報発信について

リニューアルしたホームページの改訂に加えて、一昨年に開始した本船の公式FBページ（<https://www.facebook.com/seisuumaru/>）の更新を可能な限り実施し、情報発信を積極的に行うようにした。

## （3）観測データ提供について

外洋域航走中の流向流速などの観測データを第四管区海上保安本部海洋情報部 海洋調査課海象担当、三重県水産研究所、日本水路協会に提供しているが、令和2年度は8航海分のデータ提供を行うことができた。これに関してはこれからも各機関に提供できるように続けていきたい。